

平成19年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2007年5～6月)

(1) 来遊量：

シラスは平年を下回る。

(2) 漁場：

紀伊水道東部（和歌山県側）では好漁であった2006年を下回り、平年並み。

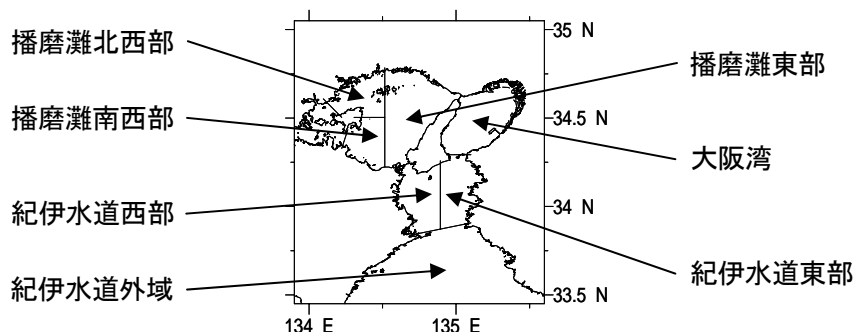
紀伊水道西部（徳島県側）では不漁であった2006年、平年を下回る。

大阪湾では不漁であった2006年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘東部（兵庫県側）では不漁であった2006年並みで、平年を下回る。

播磨灘南西部（香川県側）では不漁であった2006年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘北西部（岡山県側）では不漁であった2006年並みかやや上回り、平年を下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、田中、佐藤

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話：03-3502-8111(内線7375)、直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759

電子メール：yuusuke_satoh@nm.maff.go.jp

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

〒739-0452 広島県廿日市市丸石2-17-5

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216、電子メール：feis-kiren@ml.affrc.go.jp

本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査推進委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)及び瀬戸内海区水産研究所のホームページ(<http://feis.fra.affrc.go.jp/>)に掲載されます。

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場	香川県水産試験場
大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
岡山県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所 西海区水産研究所 瀬戸内海区水産研究所

平成19年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し (2007年5~6月)

シラス (本年春季発生群)

紀伊水道東部 (和歌山県側) では好漁であった2006年を下回り、平年並み。

紀伊水道西部 (徳島県側) では不漁であった2006年、平年を下回る。

大阪湾では不漁であった2006年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘東部 (兵庫県側) では不漁であった2006年並みで、平年を下回る。

播磨灘南西部 (香川県側) では不漁であった2006年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘北西部 (岡山県側) では不漁であった2006年並みかやや上回るが、平年を下回る。

特に断りがない場合、標本漁協におけるシラス漁獲量を各海域のシラス漁獲量の指標とし (図1~3)、1985~2005年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過 (2006年4月~2007年4月) および今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部 (和歌山県側) では2006年の漁獲量は前年の245%、平年の114%であり、前年、平年を上回った。2006年は3月24日からシラスを漁獲する船が多くなった。4月は不漁であった前年を上回ったが、平年を下回った。しかし、漁は比較的継続し、5~6月は前年、平年を上回った。7月以降は漁獲が極めて少なく、すべての月で平年を下回った。2007年の漁は4月9日以降、好漁が継続している。

紀伊水道西部 (徳島県側) では2006年の漁獲量は前年の107%、平年の38%であり、前年並みであったが、平年を下回った。1985年以降で最も不漁であった前年に次いで、2番目に少なかった。4~6月 (春シラス) は非常に不漁であった前年を上回ったが、平年を大きく下回り、1985年以降で3番目に少なかった。7~8月 (夏シラス) は前年並みであったが、平年を大きく下回った。9~12月 (秋シラス) は9~10月に前年を上回ったものの、全ての月で平年を下回った。2007年のイカナゴ漁が3月上旬で終了したため、シラス漁は前年より3週間早い3月28日に始まったが、4月18日まで低調な漁が継続している。

紀伊水道北部 (兵庫県側) では2006年の漁獲量は前年の266%、平年の59%であり、前年を上回ったが、平年を下回った。2006年の漁は4月18日から始まった。4~6月、および9~12月は前年を大きく上回ったが、平年を下回った。7~8月の漁獲量は前年をやや上回ったが、平年を下回った。2007年の漁は4月9日から始まったが、前年と比較して低調である。

大阪湾 (大阪府) では2006年の漁獲量は前年の75%、平年の48%であり、前年、平年を下回った。2006年の漁は4月30日に始まったが、魚探に魚影がほとんど映らなかったため、本格的な出漁は5月の連休明けとなった。5月も引き続き不漁で、不漁であった前年を下回った。6月中旬から湾内発生と思われる小型の群れが見られはじめ、漁獲が上向いたものの、7月には再び減少し、8月にはほとんど漁獲がなくなった。9月に漁獲が上向いたが長くは続かず、10月にはほとんど漁獲されなくなった。2007年は例年より早く、4月19日から漁が始まった。

大阪湾 (兵庫県) では2006年の漁獲量は前年の105%、平年の50%であり、前年並みであったが、平年を下回った。2006年の漁は5月1日から始まった。4~6月は前年、平年を下回ったが、7~8月、および9~12月は前年を上回ったものの、平年を下回った。

播磨灘東部 (兵庫県側) では2006年の漁獲量は前年の107%、平年の30%であり、前年並みであったが、平年を下回った。2006年の漁は6月5日から始まり、4~6月、および7~8月は前年、平年を下回った。9~12月は

前年を大きく上回ったものの、平年を下回った。

播磨灘南西部（香川県側）では2006年の漁獲量は前年の37%、平年（1989～2005年の平均値を平年値とした）の33%であり、前年、平年を下回った。2006年の漁は5月20日から始まった。6月は平年の2%と1989年以降で最低であった。その後7～8月に増加したが、9月に減少した。10～11月の合計は平年並みであった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2006年の漁獲量は前年の50%、平年（2000～2005年の平均値を平年値とした）の45%であり、前年、平年を下回った。2006年の漁は6月29日から始まり、6月は前年を大きく下回った。7月の中旬に漁獲が上向いたが、中旬以降は漁獲されなかった。秋漁は10月3～21日の期間に操業され、平年を上回る漁獲があった。

(2) 外海域での産卵量等

中央水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況（暫定）では、薩南～紀伊水道外域における2007年2月の産卵量は20.5兆粒で前々年の48%、前年の958%、平年の85%であり、低水準であった前年を上回るが、平年をやや下回ると考えられる。2月は豊後水道～足摺岬沖、土佐湾沿岸、室戸岬沿岸に産卵が認められた。3月には室戸岬～紀伊水道外域で小規模ながら産卵が認められた。

和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場が行った2007年2～4月の紀伊水道外域東部における定線調査では、LNPネット一曳網あたりのカタクチイワシ卵の平均採集数は、2月は0.06粒で平年（1997～2006年の平均値を平年値とした）の0.5%、3月は0.53粒で平年の0.9%、4月は0.17粒で平年の0.4%と低水準であった。

徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究所が行った2007年1～3月の紀伊水道外域西部における定線調査では、1月はカタクチイワシ卵が採集されず、2月のカタクチイワシ卵密度は0.7粒/m²で平年の2%であった。3月は3.1粒/m²で、低水準であった前年をさらに下回り、1996年以降で最も低く、平年の3%であった。また稚仔も採集されなかった。

(3) 今後の見通しの説明

シラス（本年春季発生群）

4月23日現在、黒潮は規模の大きいC型流路で推移し、足摺岬沖～潮岬沖で接岸しており、紀伊水道外域には黒潮系暖水の波及が見られる。4月19日に得られた海面水温衛星画像によると、種子島東方でやや離岸傾向が見られ、今後ゆっくりと黒潮下流域へ影響を及ぼすものと予想される。水産総合研究センターの海況予報モデル(FRA-JCOPE)の予報結果を併せて考慮すると、4～6月前半までは室戸岬沖～潮岬沖で黒潮は接岸傾向を示し、その後やや離岸すると予想される。

紀伊水道東部（和歌山県側）の春季シラス漁は紀伊水道外域での産卵量と来遊環境、紀伊水道以北での発生量に主に依存する。豊後水道では前年と比較して産卵が活発であったが、紀伊水道外域での2～4月の産卵量は極めて少ない。これらの産卵に由来すると考えられる紀伊水道内の和歌山県側での4月のシラス漁獲量は平年を上回る様相であり、黒潮は今後も接岸傾向で推移すると考えられるが、好漁であった前年は下回ると予想される。

紀伊水道西部（徳島県側）の春季シラス漁は紀伊水道外域での産卵量と来遊環境に主に依存する。紀伊水道外域西部での3月の産卵量は極めて少なく、稚仔も採集されていない。4月18日現在、紀伊水道内の徳島県側の漁は低調である。黒潮は今後も接岸傾向で推移すると考えられるが、漁は低調に推移すると予想される。

大阪湾および播磨灘の春季シラス漁は紀伊水道および外域でのシラス現存量と来遊環境に主に依存する。紀伊水道外域では3月まで産卵量は少なく、稚仔も採集されていないので、黒潮は今後も接岸傾向で推移すると考えられるが、漁は低調に推移すると考えられる。ただし大阪湾では近年では珍しく、2月にカタクチイワシの中羽が漁獲されており、両海域では例年より早くカタクチイワシ卵が採集されているので、例年より早く内海発生群が加入してくる可能性がある。

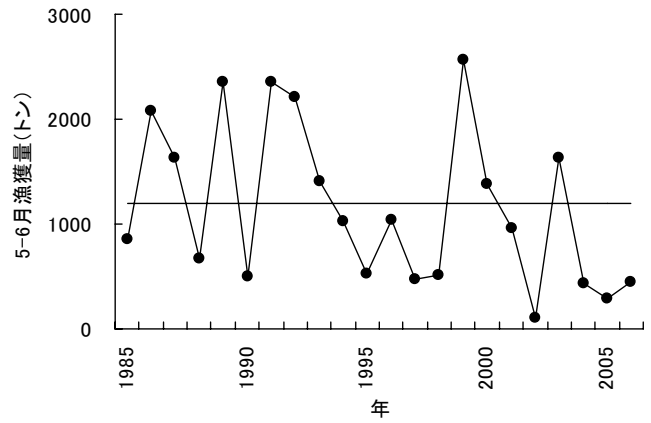
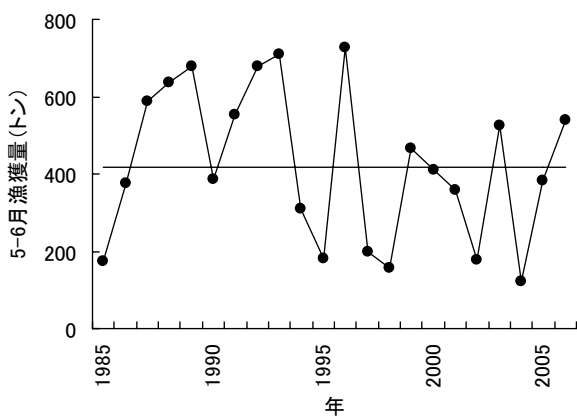


図1 紀伊水道東部（和歌山県側：左図）および紀伊水道西部（徳島県側：右図）の標本漁協におけるシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

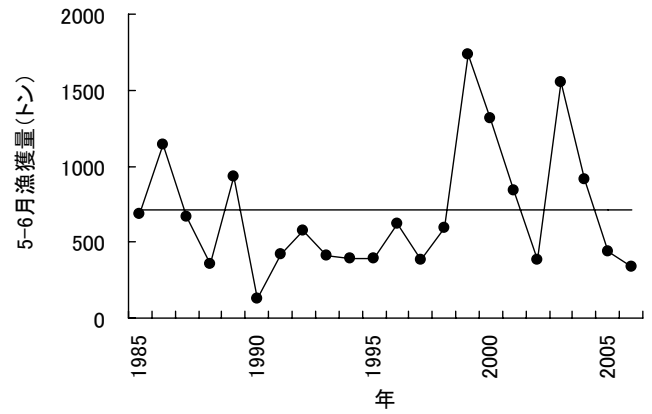
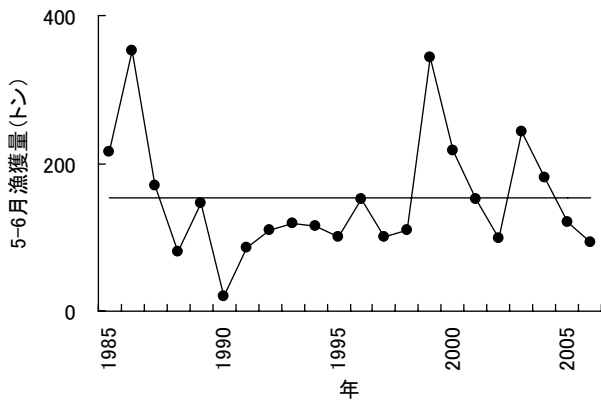


図2 大阪湾東部（大阪府側：左図）および大阪湾西部（兵庫県側：右図）の標本漁協におけるシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

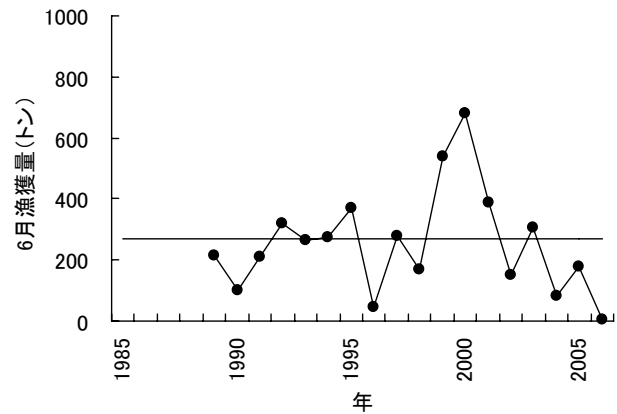
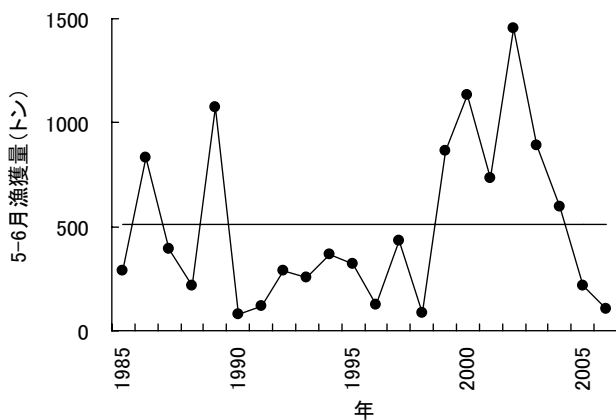


図3 播磨灘東部（兵庫県側：左図）および播磨灘南西部（香川県側：右図）の標本漁協におけるシラス漁獲量（実線は平年値を示す）